

西宮市立 中央病院の 軌跡

*from 1921
to 2026*

西宮市立中央病院



地域とともに歩んだ100余年

ごあいさつ 西宮市立中央病院は、1921年（大正10年）の開院以来、地域の皆様とともに100年余りの時を重ねてまいりました。この長きにわたる歴史の中には、様々な変遷が刻まれ、無数のドラマがあり、そして、数えきれない人々の笑顔や涙が包み込まれています。当冊子では、思い出深い写真をもとに時代の移り変わりを振り返りながら、当院に関わってこられた医師、看護師、職員の方々からいただいたメッセージをご紹介します。普段はなかなかお伝えする機会のない医療現場の裏側も語られていますので、どうぞごゆっくりとご覧ください。



1921



1963

contents

ごあいさつ

01 市長メッセージ

02 統合再編の概要

03 管理者・院長メッセージ

04 西宮市立中央病院の概要

05-12 西宮市立中央病院の歴史

13-14 功労者メッセージ

15-18 スタッフ 座談会

19-30 部門紹介

19 ・内科 | 呼吸器内科

| 消化器内科・内視鏡センター

20 | 循環器内科・心臓血管センター

| 糖尿病・内分泌内科

21 | リウマチ・膠原病内科

・小児科・整形外科

22 ・外科 | 消化器外科

| 呼吸器外科

| 乳腺外科

23 ・皮膚科・泌尿器科・眼科

24 ・麻酔科 | ペインクリニック内科／外科

・歯科口腔外科・産婦人科

25 ・呼吸器センター・健康管理センター

・ロボット手術センター

26 ・臨床検査科 | 超音波センター

・外来化学療法室・中央手術室

27 ・看護部

28 ・医療安全対策室・感染対策室

・患者総合支援センター

29 ・薬剤部・リハビリテーション科

・臨床工学科

30 ・放射線科・臨床病理科・栄養管理科

閉院にあたって

編集後記

地域医療に献身的に貢献してくださった 全ての皆様に、深い敬意と感謝の意を表します。



西宮市長
石井 登志郎

西宮市立中央病院の歴史は、その前身である西宮町立診療所が大正10年12月に西宮市久保町に開設されたことに始まります。当初は内科と小児科のみを有する木造平屋建て、建坪30坪の小規模な診療所でありましたが、その後、戦災や数度の建て替え、改称を経て、昭和50年3月には林田町に現在の西宮市立中央病院が開設されました。

100余年にわたり、西宮市立中央病院は西宮市および阪神南医療圏における公的基幹病院として、市民の健康の確保と向上に多大な貢献をしてまいりました。この場を借りて、歴代の院長をはじめ、地域医療に献身的に貢献してくださった全ての職員および関係者の皆様に、深い敬意と感謝の意を表します。

本市では、市内の医療環境向上を目指し、西宮市立中央病院のあり方について検討を重ねてまいりました。平成26年より、県立西宮病院との統合を目指す取り組みを開始し、有識者による「あり方検討委員会」での議論を重ねていただき、市議会からの意見書による後押しもいただいたうえで、平成31年には「兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合再編基本協定」を締結し、兵庫県との間で統合に関する正式な合意に至りました。

令和8年に開院予定の県市統合新病院「西宮総合医療センター（仮称）」では、最先端の医療を市内で提供し、コロナ禍を踏まえた感染症対策にも万全を期す所存です。また、救急ワークステーションの設置により、市内の救急救命体制の強化を図ります。

西宮総合医療センター（仮称）は県立病院となりますが、未来にわたって、市民48万人の健康と命を守り、豊かで実りある暮らしを支えていけるよう、本市も西宮総合医療センター（仮称）と連携して保健医療環境の向上に取り組んでまいります。

統合再編の概要

市は平成26年5月に統合再編の方針を打ち出し、医療課題の検討、外部委員からなる委員会の答申などを経て、県市の病院を統合再編し、新用地に新病院を整備することで、両病院の課題、西宮市域の課題解決を図るべく、平成31年1月に「統合再編基本協定」を県市で締結し、正式合意に至りました。

令和元年の基本計画策定においては、都市型公立病院として民間病院との連携を強化し、高機能な中規模病院を目指すことを掲げました。具体的には、両病院の公立病院としての役割を継承すべく、救急、小児・周産期、災害などの医療を担う高度急性期・急性期の病院となり、医療従事者の育成拠点としての役割を果たすことに注力し、人間ドックや検診といった市民病院のサービスは、代替可能な民間医療機関へ役割分担することとしました。また、計画公表後にも見直しを行い、市の救急ワークステーションを敷地内に併設して救命率向上に取り組むほか、新型コロナのパンデミック経験を踏まえ、感染症対応の強化を図りました。

現在、これらの方向性を具体化すべく、建設工事や各種の部門WGでの検討を進めています。また、並行して、中央病院閉院後の後医療の確保についても、地元住民との「跡地懇談会」などで検討を重ねているところです。

令和8年度上期の新病院開院に向けて、今後は両病院全部門を挙げて、医療情報システム・搬送ロボットシステムの構築を行い、大規模なリハールサルや移転作業を行う予定です。



552床、診療科目35の「西宮総合医療センター（仮称）」が2026年度開院予定。

たすき
百余年の歴史の中で受け継がれてきた襷を、
引き継ぐ存在となり続けることを期待します。



西宮市病院事業管理者
南都 伸介

当院は、大正10年（1921年）に西宮町立診療所として開設されて以来、100余年の歴史を刻んでおります。このたび、令和8年度に予定されている病院統合を機に、当院の百余年にわたる歴史を振り返る記念誌を編集いたしました。振り返れば、戦災や阪神・淡路大震災、新興感染症の流行など、幾多の試練を乗り越えてまいりました。また、医療の進歩や社会情勢の変化に伴い、市民病院としての役割や使命も大きく変化してきたことを実感しております。

当院は、県立西宮病院との統合を通じて、これらの使命にしっかりと応えとともに、未来の変化にも柔軟に対応できる病院として新たに生まれ変わります。百余年の歴史の中で受け継がれてきた「より良い医療を追求する」という襷を確実に引き継ぐ存在となり続けることを期待するとともに、これまで当院を支えていただいた市民の皆様や地域の医療機関の皆様へ改めて感謝の意を述べさせていただきます。

職員一同が一丸となって、市民の命を守る。
この思いは引き継がれるものと確信しています。



西宮市立中央病院
院長
池田 聡之

西宮市立中央病院は、100余年の歴史を誇りますが、私がこの病院に副院長として赴任したのは平成20年のことでした。救急医療を担う中核病院でありながら、スタッフ同士のチームワークが良く、顔が見える温かい病院という印象は、今も変わることがありません。

振り返りますと、新型インフルエンザやCovid-19の猛威に立ち向かい、感染症を巡る社会の変化も著しいものでした。この間、私たちは市民にとって身近な存在として命を守り、健康の増進に寄与するため、職員一同が一丸となって尽力してまいりました。この思いは、西宮総合医療センター（仮称）へと引き継がれるものと確信しております。

最後になりましたが、これまで支えていただきました市民の皆様、医療関係各位に心より御礼申し上げます。

西宮市立中央病院の概要

名称 西宮市立中央病院
[英文名称] NISHINOMIYA MUNICIPAL CENTRAL HOSPITAL

所在地 西宮市林田町8番24号

許可病床数 257床

診療科 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科
糖尿病・内分泌内科、リウマチ・膠原病内科
ペインクリニック内科、外科、呼吸器外科
消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科
ペインクリニック外科、小児科、皮膚科、泌尿器科
産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科
放射線科、臨床検査科、歯科口腔外科、麻酔科

センター等 呼吸器センター、心臓血管センター、消化器センター
内視鏡センター、糖尿病センター、超音波センター
リハビリテーションセンター、疼痛・緩和センター
ロボット手術センター、患者総合支援センター
健康管理センター、臨床病理科

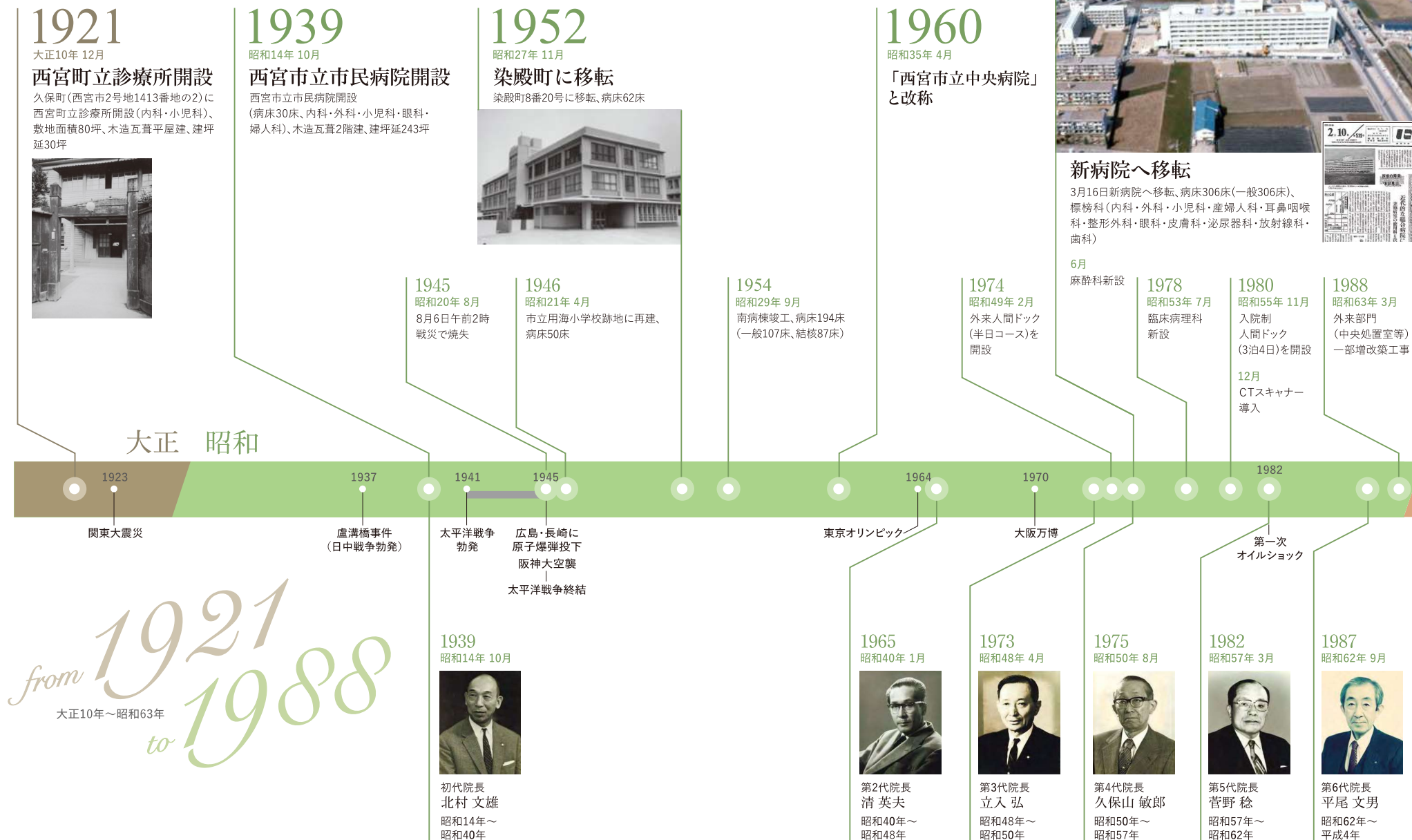
構造 病院本館 鉄筋コンクリート造
高層棟地下1階地上6階（塔屋2階）
低層棟一部地下1階地上2階
車庫 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造平屋建
自転車置場 鉄骨造平屋建
屋外機械室 鉄筋コンクリート造平屋建
看護師実習棟 鉄骨造2階建
リニアック棟 鉄筋コンクリート造平屋建

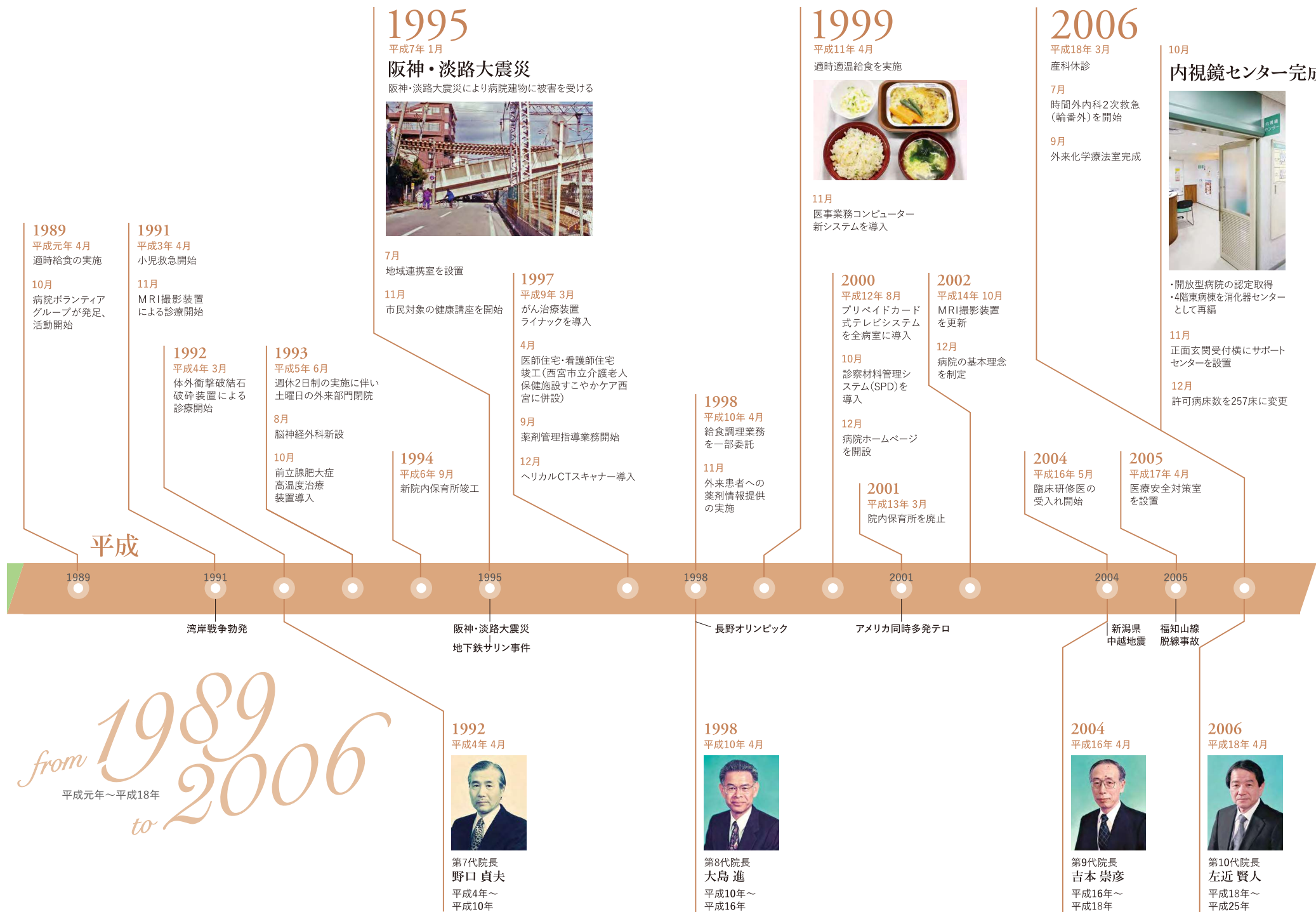
土地・建物面積		
敷地面積	12,281.07㎡	
	建築面積	延床面積
病院本館	3,989.9㎡	19,101.99㎡
車庫	65.68㎡	62.54㎡
自転車置場	63.92㎡	86.56㎡
屋外機械室	21.75㎡	21.75㎡
看護師実習棟	131.76㎡	263.52㎡
リニアック棟	269.27㎡	273.44㎡



時代の変化とともに、地域医療に進化を。

西宮市立中央病院の歴史





平成

from 2007
平成19年～平成28年
to 2016

2008

平成20年 3月

- ・予約センターの設置
- ・電子カルテ・オーダーリングシステムの導入

7月

時間外内科2次救急の拡充(土曜日午前中)

10月

- ・クレジットカードによる料金収納システムの導入
- ・検査予約システムの導入

12月

病院機能評価認定(Ver5.0)を取得

2009

平成21年 1月

マルチスライスCTの導入

3月

糖尿病センターの設置

4月

- ・時間外内科2次救急の拡充(木曜日)
- ・緩和ケア病床の設置(6階病棟2床)

5月

新型インフルエンザに対応するため発熱外来設置



7月

- ・時間外外科2次救急の開始
- ・DPC制度の導入

12月

- ・病院ホームページリニューアル
- ・救急医療機関の告示を受ける

2010

平成22年 1月

超音波白内障手術装置(インフィニティビジョンシステム)導入

4月

- ・院外処方開始
- ・疼痛・緩和センターを開設

11月

「病院体験フェア」を初めて開催



2011

平成23年 2月

兵庫県指定がん診療連携拠点病院の認定取得

3月

東日本大震災

東日本大震災において、郡山市内3病院での二次救急業務等支援活動のため、医師・看護師・事務職で編成した支援チームを派遣(3/16～4/7)



4月

消化器内科・消化器外科を新設

2011

東日本大震災

2012

平成24年 4月

呼吸器外科、乳腺外科新設

2013

平成25年 4月

看護師修学資金貸与制度実施

9月

「西宮市新病院基本計画」策定

2013

平成25年 4月

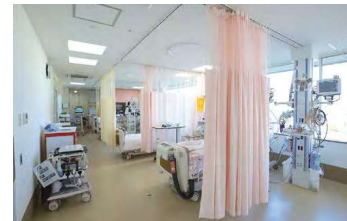


第11代院長
根津 理一郎
平成25年～令和2年

2016

平成28年 4月

HCU、地域包括ケア病棟を設置



- ・感染対策室を設置

2014

平成26年 1月

7:1看護体制を開始

4月

地方公営企業法の全部適用に移行

6月

病院の移転・新築計画を白紙撤回

12月

病院機能評価認定(3rd G Ver1.0)を取得

2015

平成27年4月

看護師2交代制勤務を部分導入

9月

超音波センターを開設

平成28年 4月

- ・MRI撮影装置の更新(3テスラ)



- ・連携医制度を創設
- ・西宮市病院事業経営審議会を設置
- ・兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院のあり方検討委員会を設置



7月

標榜診療科に糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、循環器内科、ペインクリニック内科、ペインクリニック外科を追加

2016

熊本地震

平成28年 10月

心臓血管撮影室オープン



2014

平成26年 4月



西宮市病院事業管理者
南都 伸介

2017

平成29年 3月

周術期
サポートセンターを開設

8月

リニアク棟オープン



2018

平成30年 2月

手術支援ロボット導入

・手術支援ロボット「ダヴィンチS1」導入



・日本医療マネジメント学会
第12回兵庫支部学術集会
を主催



3月

1階エントランス改修工事完了



2019

平成31年 1月

「兵庫県立西宮病院と西宮市立
中央病院の統合再編基本協定」
締結



3月

病棟の浴室、トイレを改修

令和元年 6月

地域医療支援病院の名称承認

2020

令和2年 2月

「兵庫県立西宮病院と西宮市立中央
病院の統合再編基本計画」を策定

3月

発熱患者等に対応するため
特別外来を設置



8月

新型コロナウイルス感染症拡大対応
の為、県が当院を新型コロナウイルス
感染症重点医療機関に指定



10月

発熱等診療・検査医療機関に指定

2021

令和3年 3月

・全身用X線マルチスライスCTの更新、
電子カルテ・オーダーリングシステムの更新



・新型コロナワクチンの接種開始



7月

リウマチ・膠原病内科を新設

2024

令和6年 1月

ロボット手術センターを設置



2月

能登半島地震において被災医療機関支援
のため、看護師1名を公立穴水総合病院に
派遣 (2/16～2/22)



7月

手術支援ロボットを
「ダヴィンチX」に更新



from 2017
平成29年～令和8年
to 2026

平成

令和

2020

新型コロナ
ウイルス感染拡大

2020

令和2年 4月



第12代院長
池田 聡之
令和2年～

2023

令和5年 7月

起工式

西宮総合医療センター(仮称)の工事着手に
あたり、起工式を開催

10月

「西宮市立中央病院 経営改革プラン」を改定
・患者給食の選択メニュー(月1回)を実施



新型コロナ
ウイルス感染症の
5類移行

能登半島地震

2026

令和8年度上期

・西宮市立中央病院閉院(予定)
・西宮総合医療センター(仮称)
開院(予定)



中央病院の閉院に寂しい思いを抱きつつ、
統合新病院への期待に胸を膨らませています。



医療法人伯鳳会 大阪中央病院
名誉院長(西宮市立中央病院 元院長)
根津 理一郎

平成25年春より7年間務めさせていただいた西宮市立中央病院が閉院との報に接し、懐かしく当時のことが思い出されます。私が赴任した当時は施設の老朽化に伴い、津門大塚町のアサヒビル工場跡地に中央病院の単独新築移転が予定されていました。翌年春には事業管理者として南都先生をお迎えし、移転準備が進められようとしていた矢先、5月の市長選挙にて交代劇が起こり、単独移転が白紙撤回されたのは大きな驚きでした。その後は医療情勢の変革に沿って県立西宮病院との統合再編への道を進むことになり、この度現在の中央病院が閉院となるのは少し寂しいですが、令和8年に開院予定されている統合新病院への期待に胸を膨らませているところです。

地域の方々と職員同士のつながりを常に大切に。
長い間勤めることのできた私の誇りです。



西宮市立中央病院
元看護部長
永翁 雅子

中央病院は、私が子供のころから「市民病院」として親しまれてきました。医療の高度化や社会の変化に伴い、病院はその役割を進化させ、看護も専門性を高めてきましたが、その間も地域の方々との信頼関係や職員同士のつながりは、常に大切にされてきたと感じています。このことは長い間中央病院に勤めることのできた私の誇りです。

阪神大震災の際には、多くの方が病院に押し寄せ、職員も被災者でありながら懸命に救護にあたりました。未曾有の災害で、人々の生命や健康を守るためにどんなに尽力しても足りない、厳しくつらい体験です。この教訓から防災意識が高まり、病院の防災対策が強化されたと感じます。

今回の病院統合により、新たに進歩と発展を遂げられますよう、お祈りしています。そして、職員の温かく力強いつながりによって、地域の皆様に安心と信頼を提供し続けることを期待しています。

放射線技師としてお世話になった39年間。
職員間のさまざまな交流が良い思い出に。



西宮市立中央病院
放射線科 元技師長
田崎 勇夫

私は、1973年4月、当時染殿町にありました西宮市立中央病院に放射線技師として採用され、2012年3月末に退職するまでの39年間お世話になりました。

1975年3月に中央病院は現在の林田町に新築移転しました。

勤務している間に放射線科にはフィルムのデジタル化の波が押し寄せ大きく変っていったことが思い出されます。またCT撮影装置やMRI検査装置など様々な医療機器の発展も日進月歩で進み我々は色々な勉強会、研修会に参加して知識を広め技術を習得し病院診療、地域医療に努めてまいりました。

病院での大きな出来事は、1995年1月17日、阪神淡路大震災に見舞われたことです。電気、水道、ガスなどのインフラが壊滅し放射線業務が出来ない日々が続きました。病院に搬送された後でお亡くなりになったご遺体を安置場所に運び、ご遺族が引き取りに来られた際は引き渡す作業に従事しました。エレベーターが使えず数人がかりで階段を利用したものでした。また被災家屋の調査に駆り出された時の街の悲惨な光景は忘れる事ができません。

病院では、職員間での親睦活動が盛んで、長年にわたり多くの方とテニスやゴルフ、野球などを通じて交流ができたことは良い思い出となっています。

その思い出深い中央病院が統合とのことで閉院となる事はとてもさみしい思いですがより良い病院として出発されることに期待しております。

「病院再建計画」で変わった職員の意識。
今でも忘れられない、あの時の充実感。



西宮市立中央病院
元事務局長
中野 守道

事務局長に就任し病院の経営改善を担当することになったとき、最初に思いついたのは、以前、新任課長研修で聞いた樋口廣太郎氏（当時のアサヒビール会長）の話でした。住友銀行の副頭取であった同氏が51歳の時、経営不振のアサヒビールに出向して苦勞のうへ「スーパードライ」を誕生させ、同社を再建させたという話を思い出したのです。

以来約2か月かけてすべての職場を回り、全職員に対しこのままでは病院はつぶれる。何とかそれぞれの職場での改善点を一人1点以上提案してほしいと訴えました。すると何と期日までに職員数の2倍を超える改善提案が寄せられ、これをもとに各職場から選ばれた委員により「病院再建計画」が作成された。この中には職員にとって身を切る内容も含まれていましたが、組合の協力も得て着実に実施されていきま

この間の取り組みで一番うれしかったことは、職員の意識が変わったことです。あの時の充実感は今でも忘れられません。